

「むねあかどり」



ラーゲルレーブ 作

中村 妙子 文

高瀬 ユリ 絵

日本基督教団出版局 1989

イエスさまの十字架のお話し。

コロナウイルスで世界中が不安な中、新しい一年が始まりました。皆さん、御入園・ご進級おめでとうございます。いつもと違う年度初めですけれど、神さまの恵みを沢山感じながら、今年度もめぐみ幼稚園の皆さんと楽しい絵本のお話をしていきます

春の始まりはイースター＝復活祭、私たちキリスト教を信じる者にとって大切なお祝いです。

イエスさまは神さまの子どもだったのに、私たちのところに来て下さいました。そして私たちの代わりに十字架にかけられました。悲しい出来事です。でも、イエスさまは死んでお墓に葬られ三日目の朝、復活されたのです。これは 2000 年前に本当に起こった出来事です。

『むねあかどり』はイエスさまの十字架の出来事を、真っ赤なむなげを持つ小鳥を題材にして印象深く語ります。

神さまははじめ、この鳥を灰色一色の小鳥としてお創りになりました。

「なぜ むねあかどりという なまえをいただいたばかりが

こんな くすんだいろなんでしょう？」

「わたしがそうきめたのだ しかし いつまでも そのままだとは かぎらないよ」

主人公の“むねあかどり”はヨーロッパコマドリ、ロビンとも呼ばれる可愛い身近な小鳥です。

スウェーデンのノーベル賞作家、セルマ・ラーゲルレーブ（1858～1940）が北欧に伝わるキリスト教伝説を作品化し、中村妙子さんがきれいな文章の本を作ってくれました。難しい言葉もそのまま読んで下さい。幼い心はそのままうけとってくれるでしょう。何だかはっきりしないものがひっかかるほうが、少しくらい疑問が残ったほうがいいと思います。

私たちはみんな、神さまがお創りになった世界に大切な役割を与えられて生きています。長い時間の中を神さまが見守り、導いて下さるのです。

幼稚園の営みの中で、みんなで成長していきましょう。

2020年4月23日 梅崎啓子